
ラウンジ -another

久世はるや

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ラウンジ - another

【Zコード】

Z3415P

【作者名】

久世はるや

【あらすじ】

「6月、梅雨、携帯電話」をテーマに、
年上の彼女、女の子視点。

「ケータイばっかいじつでないで本でも読んだら？」少年

あたしは何の前振りもなく文庫本から顔を上げて、後輩くんにこつこつ笑いかけた。

ちょうど限が空いてる日だつていうのに、今日は雨。というか、昨日も一昨日もその前も雨だつた。そつ、梅雨。だからあたしはラウンジでゆつくり本を読んでた。可愛い後輩くんが途中でやつてきて正面に座つたのには気付いてたけど、あえて黙つてみた。

でもこの子つてばちらちらあたしのこと見ながらケータイ触つてるもんだから、ちょっとちよつちよつとい出してもよつかな、とまあそんなわけで。

彼はひどくびっくりした顔をして、いよいよじつとあたしを見てきた。

「……何よ。あたしの顔そんなに変つ?」

「い、いえ、すみません」

「ま、いいけど。それで、君は本とか読まないの?」

「いや、人並みには読みますけど……先輩こそ、貴女が読書なんかしてるとこか、初めて見ましたよ」

「梅雨だからよ」

あたしは、断言した。

「もつ6円でしょ。雨も続いてる。つまり梅雨よ。だからあたしは本を読むの」

「梅雨、だから、本を読む?」

「そ

あたしが笑うと、彼は、ほんとうに渋然としているようだった。

せつかくスタイルショコにセシットした髪もちよつとへたれて見えて。

黒地のポロシャツの襟が中途半端に折れていで。

両手はケータイを握っているのに妙に行き場がなさうだ。

彼は、困っていた。

「だから君も本を読みなさい。やうじやなきやそのステキなケータイねじ切るわよ」

「ねじ切る、って……」「……

「ひへ、画面のまつとボタンのまつ持つて、ぐいって

雑巾を絞るみたいに手を動かしてみせると、本気にしたのか何なのか、彼はケータイをさつと鞄の中に突っ込んだ。

ああ、もう、ほんと可愛い。でも、可笑しい。あたしは声をあげて笑い、本を伏せて置いた。

後輩くんは耳まで真っ赤になりながら、あたしの本を指さして訊く。……照れ隠しだ。

「先輩は、何を読んでいらっしゃるんですか」

「んー？ なかはらひゅーせ

「…………」

「知ってるでしょ、汚れつちまつた悲しみに……って。ぴったりじゃない」

言つてから、何がぴったりなんだか、つて内心で自己突っ込みを入れてみた。
これが梅雨の詩じやないし、あたしはちつとも孤独じやない。
だつてあたしには、可愛くて素直な後輩、あたしの大好きな彼がいるから。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3415p/>

ラウンジ -another

2010年12月10日19時51分発行